

各位

特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
専務理事 渡辺 豊博
携帯：090-2619-4752

**「2023年度水環境文化賞」の受賞者が決定
NPO法人グラウンドワーク三島が受賞！**

この度、特定非営利活動法人グラウンドワーク三島は、2023年12月8日（金）に発表された「2023年度水環境文化賞」（主催：公益社団法人日本水環境学会）において、受賞者に選定されました。

1. 「水環境文化賞」とは

水環境文化賞は、水環境の保全・創造に関する社会・文化活動が顕著である団体または個人を表彰するものです。

1997年の開始以来、これまで23道府県の43団体・個人が表彰されています。

【参考】日本水環境学会ホームページ

<https://www.jswe.or.jp/awards/bunka/index.html>

2. 応募・推薦状況及び審査結果

第26回目となる今回は、2023年10月3日（火）まで募集が行われ、審査の結果、4団体を選出されました（応募数非公表）。**なお、静岡県においては本会が初の受賞となります。**

3. 受賞した文化活動の概要と評価基準

「水の都・三島」の水環境を地域協働で再生する活動

○源兵衛川の水環境モニタリング調査および希少種の生息環境の再生活動

1960年代半ばから深刻な環境悪化が進行した源兵衛川において、1990年以降、市民による年間40回以上の継続的な環境改善活動により、豊かな水辺自然空間が復活しました。

環境改善活動と並行して環境モニタリング調査を行い、生き物の生息状況の把握と外来種の除去、外来種の導入による希少種の生息環境の再生活動を実施しました。

また、ホトケドジョウ（県レッドリスト絶滅危惧ⅠA類／県東部）やゲンジボタル、カワセミが生息できる水辺環境の整備を図り、源兵衛川から消滅したミシマバイカモ（環境省絶滅危惧Ⅱ類）を、増殖基地である「三島梅花藻の里」から源兵衛川に移植・自生させ、多種多様な生き物が生息できる自然度の高い川を創り上げました。

○松毛川の地域環境に優しく、共存する森づくり活動

松毛川は狩野川流域に唯一残された6haの旧河川敷・止水域です。両岸には、狩野川原風景であるエノキ、ムクノキ、ケヤキなど約1,300本の樹木からなる河畔林・樹林帯が広がり、樹齢100年以上の巨木が130本以上も残存する、全国的にみても貴重な「ふるさとの森」です。

しかし、土地所有者の高齢化と農地・森林の管理放棄により、河畔林周辺は放置竹林に覆われ、風雨や高齢化による倒木や枯死も発生して、「ふるさとの森」が消滅の危機に瀕していました。

そこで本会では、松毛川を「千年の森」と位置付け、2003年から地域協働による環境改善活動を実施してきました。これまでに河畔約2.4kmに及ぶ竹林伐採や潜在自然植生の苗木8,000本以上の植樹、外来種ホテイアオイの駆逐、2tトラック数百台分以上のゴミの除去、「松毛三日月会」などの地元愛護会の結成、自然観察会の開催、大学生の現場体験や企業のCSR活動の場としての活用、県による「地域用水環境整備事業」の導入・提案を進めてきました。

**○環境出前講座や水辺自然観察会の開催を通じた次世代の人材育成活動**

本会では、ふるさとの川づくりを担う人材育成にも力を入れてきました。2004年からの「リバーインストラクター養成塾」では市民インストラクターを延べ150人育成しました。2009年からは、子どもを対象とする「環境出前講座」を本格的に展開してきており、2019年度は、三島市教育委員会や企業から高い評価を受け、水辺再生や生物多様性を学ぶ現場体験型のプログラムを延べ44回開講し、受講者計2,300人を集めるまでに発展・拡大してきています。

4. 今後の予定

2024年3月7日(木)に九州大学伊都キャンパスにて開催される第58回日本水環境学会年会において表彰式が執り行われます。

5. 添付資料

- ・ 水環境文化賞について (募集チラシ)

| | |
|-----|---|
| 問合せ | 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島 (発信担当: 事務局 美和) 住所: 〒411-0857 三島市芝本町 6-2 TEL: 055-983-0136 FAX: 055-973-0022 E-mail: info@gwmishima.jp URL: http://www.gwmishima.jp/ |
|-----|---|